

盛岡地区交流会報告

日時：2026年7月22日（水）13：30～15：30

場所：アイーナ6階団体活動室2

参加：端坂支部長、佐藤副支部長
その他8名

内容：

1. 挨拶

佐藤副支部長

端坂支部長

① 医療講演会報告

要旨の説明

② その他

住友ファーマが開発した「アムシェプリ」これまでの動きと概要

- ・ 2026年5月：公的医療保険への適用が了承
高額療養制度の対象となる
- ・ 2026年6月：厚生労働省から、65歳以下患者30名、65歳超の患者5名を対象とする。試験実施施設6～10施設という条件が公表された。

今後、実施医療機関が公表される予定

2. パーキンソン病を学ぶ

パーキンソン病の運動症状について

資料を配布して、要点を説明

3. 自己紹介・現況・困っていること

Aさん：ご主人が患者の奥さんの発症からの治療経過を説明した。

現在困っていることは日中の眠気である。5月の医療講演会で支部長に質問してもらい、武田先生から睡眠時無呼吸症候群はシーパップで十分な睡眠がとれているようなので眠気の原因ではないと思われる。

DBS手術をしてドパコール100mg×3も眠気がでるほどの量では

ない。ハルロピテープ32mg + 16mgの影響が考えられる。ハルロピテープの容量は減らし、ドパコールを増やすことで眠気が改善されるかもしれない。主治医と相談してみてください。

武田先生のアドバイスを受けて、主治医に相談したところ、ハルロピテープが32mgに減薬され、ドパコールが100mg × 3 + 50mgになった。眠気は多少改善されたような気がする。

Bさん：医療講演会を聴講し、仙台西多賀病院に転院した。武田先生が主治医で7月7日（火）が初診だった。評判通り丁寧に話を聞いてくれて治療方針に納得できた。マドパー100mg × 3からマドパー100mg × 4に増量して様子を見ることになった。8月4日（月）から服薬調整入院の予定です。

今回、このような交流会に初めて参加しました。同病者の話が聞けて参考になります。今後もよろしくお願いします

Cさん：神奈川に住んでいる息子（43歳）が若年性パーキンソン病です。パーキンソン病の非運動症状の気分の落ち込みとは別に「鬱」で精神科に通院している。昨年も5月頃から「鬱」症状が悪化し、半年休職した。今年も4月から休職している。職場はパーキンソン病について理解してくれていると思っていたが、昨年度、復職してから激務が続いたことが、今回の「鬱」症状の悪化につながったと思うようになり、転職を考えているようである。障害者雇用の説明を受け、「あなたの場合は障害者手帳を受けられる可能性がある」と言われ、障害者手帳申請を考えているようである。

Dさん：娘（42歳）が若年性パーキンソン病で岩手医科大学付属病院に通っている。私は以前ケアマネージャーをしていたので非若年性パーキンソン病についてはある程度知識はもっているつもりだったが、若年性パーキンソン病はまったく違い困っていた時に盛岡社協だよりに勉強会の案内が掲載され、参加した。支部長のパーキンソン病とはどんな病気という説明がわかりやすかったのですぐに「賛助会員」になり、毎回、交流会に参加している。交流会以外でも支部長にメールで相談するとすぐに

資料を送ってくれてわかりやすく説明してくれて助かっている。
娘も資料をみて納得して病気を受け入れている。

次回予定

日時：2026年9月23日（水）13：30～15：30

場所：アイーナ6階団体活動室2